

第3部「詳報・建設トップランナーフォーラム」



愛媛銀行などが農林水産業 いわれている。このうち国内向けに立ち上げた投資ファンドの生産高は12億13兆円。生産者ドが「えひめガイヤファンド」のウエートは5分の1弱。上ド」。愛媛県の県内総生産(2002年)のうち、一次産業の積み分が域外と大手流通業にシエアは2・6%で全国平均値を得られていないのが現状均(1・2%)の2倍強。一だ。

次産業のウエートが高い県南部の南予地方(6%)では地域の疲弊が深刻化していた。「地域を活性化したい。農業も高収益を生み出す産業にならなくして地域振興などあり得るのか」との強い思いが設立の動機だった。

■高収益生む仕掛け

づくりが鍵

農業は確かにもつからないが、裾野が広いその産業構造は自動車産業に似ている。食品関連産業は80兆円市場とも

福富氏は「工業や商業のよりに付加価値を手元に残す仕掛けづくりができれば、農業も高収益を生み出す産業になるはず」と判断。今まで、工業を中心に収益を上げてきた銀行は、そのノウハウを一次産業に生かせるのではないかと考え始めた。

農業を取り巻く政策も大きく変わってきた。規制が緩和される時、商機が訪れる。40%という食糧自給率も今のよ

うな状態でいいわけがない。

3 特別講演 愛媛銀行 法人推進グループシニアマネージャー 福富治氏



農業への参入は長期的な取り組みが必要とアドバイスする愛媛銀行の福富治氏

食料確保は国防政策でもある。日本は水資源に恵まれた国だが、有効に利用されているとはいえない。松山市も例外ではなく、市の水の85%は有効活用されていない。農業は環境産業であり、水を守る産業。いわば水を使った二次産業として成長する可能性を秘めている。

■経営に積極関与するの投資活動

融資と投資には幾つかの相違点がある。融資は数年内に償還が始まる。投資は集めた資本で株式や社債を預かり、10年を目安に運用、資金を回収し利益を上げる。そこには

新たな事業に取り組む時、その担い手には、実績も信用も担保もない。このため新しいビジネスモデルを創るに

【福富治氏のプロフィール】一次産業および関連産業の支援、育成を目的とした民間金融機関としては国内初の農業ファンド「えひめガイヤファンド」設立の立役者。経済産業省地域中小企業サポーター。

担保も保証も支払利息もな。投資額は50万から500万円。投資が融資と最も異なるのは、銀行が事業経営に積極的に関与することだ。有望な事業者を発掘し、資金を投入して育てるのが投資であり、市場や事業の成長性に注目する。中でも最も重視するのは事業者の資質。資質の高い事業者を見つけるには足で稼ぐしかない。これまでに県内の100社以上の事業所を訪ね、みかん農家らに億円ほど投資した。金融機関には農業生産のノウハウがない。最難題は経営支援の体制。えひめガイヤ

「えひめガイヤ」※毎週火・木曜に掲載

(新建新聞社 岸豊)

仕掛けできれば農業も高収益

日本には建設業が必要です